

バスケットボール 3x3 における取り組みと 東京オリンピック・パラリンピックに向けて

中央大学理工学部

酒折 文武

一般社団法人アルボラーダ 事業部 岡田 忠

これまで、日本統計学会スポーツ統計分科会での研究活動や、同分科会等が主催するスポーツデータ解析コンペティションを通して、野球やサッカーなどのプロスポーツを中心としたチームスポーツに関するデータ分析を行ってきた。例えば、野球の投球に関するトラッキングデータを用いた分析としての酒折他（2017）など、さまざまな成果を上げつつあるものの、スポーツ界に与えた影響はやや限定的であった。何よりも、データ収集という面で協力的かつ充実した競技、言い換えれば金銭的に恵まれたスポーツに対してのみの貢献でもあった。

しかし、2020年東京オリンピック・パラリンピックの競技をはじめとして、必ずしもそのようなスポーツばかりではない。例えば、3人制バスケットボールである3x3（スリー・バイ・スリー）は、東京オリンピックの正式競技として加わったこともあり世界的に広がりを見せつつあり、日本においても国際バスケットボール連盟FIBAに承認されたプロのトップリーグ3x3.EXE PREMIERが全36チームで競われるなど規模を拡大しつつあるが、まだ経済規模は非常に小さい。ストリートバスケットボールをルーツとするその経緯から、スピーディかつ激しい試合展開、試合のショーアップと盛り上がりを見ると、今後の発展について大きなポテンシャルを持っているといえるが、現状としてはデータ活用どころかデータ収集すらままならない状態である。このようなスポーツに対して、どのようにデータサイエンスを活用してスポーツを発展させていくか、さらには東京オリンピック・パラリンピック、あるいはその先を見据えてどのように強化していくかは、非常に大きな課題である。

縁があって、この3x3プロバスケットボールクラブの一つ「アルボラーダ」を支援することになった。アルボラーダは茨城県つくば市をホームタウンとするクラブであり、企業的にではなく草の根的に組織されている。こうした草の根的な団体の経営安定化、クラブ強化を目的として、ITインフラの整備から、データ収集による戦略・戦術分析、選手強化やクラブ経営、イベントの来客者分析やイベント会場までの動線分析、サポーターコミュニティ醸成、ホームタウンとの関係構築やスポーツを中心としたまちづくりを目指した分析などを総合的に行うことを本研究では目指している。このような取り組みは、Beyond 2020の当該スポーツの持続可能性を考える上でも非常に重要である。さらに、クラブの代表は日本代表チームのコーチも務めており、東京オリンピックにおける競技力強化を考えても非常に重要な取り組みであると考えている。今回の講演では、この大きな取り組みの概要と、これまでの取り組みについて紹介する。

参考文献

- [1] 酒折文武・圓城寺啓人・竹森悠渡・西塚真太郎・保科架風. (2017). 野球のトラッキングデータに基づいた肘内側副靭帯損傷の要因解析. 統計数理, **65**(2), 201-215.